

明治神宮外苑再開発関係年表

- 1915 明治天皇崩御から3年後、明治神宮の創設が正式に告示
- 1920 明治神宮創設
- 1926 神宮球場等の神宮外苑は明治天皇没後、遺徳を偲ぶ施設として陸軍青山練兵場に国内の抛出金、抛出木(10万本)、労働奉仕(述べ11万人)で造られる
- 1945 米軍が接收
- 1951 返還前に神宮外苑一帯が風致地区に指定される(高層ビルは建てられず)
- 1999 石原都知事
- 2003 JEM・PFI 共同機構が「東京都防災まちづくり計画事業提案書」を作成
- 2004 電通が GAIEN PROJECT『21 世紀の杜』企画提案書
(外苑竣工 100 周年を見据えて東京にオリンピックを招致した。老朽化した神宮球場をドーム化する)
- 2005 森喜朗元総理・石原都知事会談 石原都知事2回目の東京オリンピックをぶち上げる
- 2006 都庁に五輪招致本部設立(メインスタジアムは当初晴海を予定、実際は晴海は選手村になる)
- 2009 2月 東京が 2016 年のオリンピックに立候補
7月 IOC 総会でオリンピックに落選
7月 ラグビーW 杯日本開催決定
- 2011 「ラグビーW 杯 2019 日本大会成功議員連盟」が結成される
- 2013 9月 オリンピックの東京開催がIOC総会で決定→再開発の動きの本格化
新国立競技場建設 1545 本の樹木が伐採される
- 2013 高さ制限が 15mから 80mに緩和され、国立競技場周辺一帯を再開発党促進地域とする
- 2014 1月 オリンピック組織委員会が発足、森喜朗会長
- 2015/5/15 佐藤広東京副支持が、森喜朗衆議院議員に神宮外苑全体の再整備を進めると説明
- 2015 東京都とJSC(日本スポーツ振興センター)、明治神宮、伊藤忠、三井不動産が「神宮外苑地区まちづくりに係る基本覚書」を締結
- 2016 同時に霞ヶ丘都営住宅、明治公園が廃止され、旧日本青年館が建て替えられた
- 2019 ラグビーワールドカップに向けて国立競技場が再整備
東京都が「2020 東京オリンピック後の神宮外苑の街づくり資料」を作成
3月 ラグビーW 杯開幕
- 2020 新型コロナウイルスの感染拡大により、オリンピック延期、2021 年は無観客で開催
- 2021 7月 東京オリンピック開催
- 2022 2月 東京都は都市計画審議会を経て、秩父宮ラグビー場周辺の約 3.4ha の公園指定を解除
(→高層ビルを建てられるようになる)→×185m、80mの 2 棟のビル建築が可能になる。
× 公園のエリア外にも 190mのビルを造り、外苑の景観が変わる
8月 東京地検特捜部が組織委元理事高橋治之を逮捕、五輪汚染が拡大
- 2022 11/30 船田元発起人「神宮外苑雄自然と歴史・文化を守る国会議員連盟」が発足
- 2022 12/21 // 決議文を東京都知事、文科大臣、環境大臣、明治神宮、JSC等に提出
- 2022/12/26 4 事業者がアセスメントの修正案を東京都環境影響評価審議会に報告
- 2023/1/25 日本イコモス国内委員会が記者会見で、4 事業者の提出した環境影響評価(アセスメント)評価書が不適切だとして再審議を求める意見(80 頁)を公表
2/17 東京都再開発事業を認可
- 2036 神宮外苑再開発完成予定